

6 林 業

項 目	作 業 内 容
(1) 新植ほだ木の管理 (2) 2年ほだ木の管理	(今月の作業のポイント) ○新植ほだ木の管理 ○2年ほだ木の管理 ○散水の管理 ○病害対策 ○台風対策 ほだ木の出来が後々の収穫を左右するため、シイタケ菌糸を原木内部にいかに速やかにまん延させるかが重要であり、伏せ込み場をよく見回ってほだ木の状態に合った管理を行う。 裸地伏せの場合は、笠木が薄くなったところは必ず補充を行い、直射日光がほだ木に当たらないようにする。日光の直射はシイタケ菌糸を弱らせ、樹皮のはく離や害菌の進入を招く。西日の差し込む方向には笠木を十分張り出す。スギ・ヒノキ人工林を伏せ込み場に行っている場合は高温多湿の状態になりやすいので、下草や灌木の刈払いを行って通風をはかる(図1)。 生木状態のほだ木は菌糸が表面近くにしかまん延せず、うわほだになる。水分を抜いて枯れ込みを進行させるため、ほだ木の上下と表裏が入れ替わるよう天地返しや積み替えをおこなう。 伏せ込み管理 笠木の補充 笠木の厚さは 30~40cmが良い  図1 伏せ込み場等の管理 (一財)日本きのこセンターHPより引用 適期に伐採・葉枯しを行い、早期に植菌・仮伏せを行ったものは順調に菌糸が材内部にまん延しているが、伏せ込み場の環境は様でなく、場合によってはほだ化が遅れていることがある。いくつかほだ木を抜き出して木口から30cmくらいのところを切断し、菌糸のまん延状態(ほだ付き)を観察・確認することが大切である(図2)。 遅れている場合は散水し、散水できない場合は低く伏せる。

項 目	作 業 内 容												
	ほだ場の整理は夏場の重要な作業である。間伐・枝打ちを行ってほだ木に雨が当るようにする。 2年ほだ木のほだ化チェック（自己診断） <table><tr><th></th><th>良いほだ木</th><th>普通のほだ木</th><th>悪いほだ木</th></tr><tr><th>ほだ木の断面</th><td> 表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がほとんど見えない </td><td> 中心部の年輪がハッキリしている  内樹皮に茶褐色部分がところどころ見られる </td><td> 表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がハッキリと見える（菌糸のまん延が悪い） </td></tr><tr><th>ほだ木の表面</th><td> しっかりした大きな原基が数多く見られる  内樹皮が菌糸で覆われている </td><td> 原基が見られる  内樹皮に茶褐色部分が見られる </td><td> ほだ木は非常に重い 原基が確認できない  内樹皮に茶褐色部分が多い </td></tr></table> 図2 ほだ木の観察・確認のポイント （一財）日本きのこセンターHP より引用		良いほだ木	普通のほだ木	悪いほだ木	ほだ木の断面	表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がほとんど見えない	中心部の年輪がハッキリしている  内樹皮に茶褐色部分がところどころ見られる	表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がハッキリと見える（菌糸のまん延が悪い）	ほだ木の表面	しっかりした大きな原基が数多く見られる  内樹皮が菌糸で覆われている	原基が見られる  内樹皮に茶褐色部分が見られる	ほだ木は非常に重い 原基が確認できない  内樹皮に茶褐色部分が多い
	良いほだ木	普通のほだ木	悪いほだ木										
ほだ木の断面	表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がほとんど見えない	中心部の年輪がハッキリしている  内樹皮に茶褐色部分がところどころ見られる	表皮は柔らかく爪がたてられる程度  年輪がハッキリと見える（菌糸のまん延が悪い）										
ほだ木の表面	しっかりした大きな原基が数多く見られる  内樹皮が菌糸で覆われている	原基が見られる  内樹皮に茶褐色部分が見られる	ほだ木は非常に重い 原基が確認できない  内樹皮に茶褐色部分が多い										
（３）散水の管理	定期的に散水を実施し、種菌部の乾燥を防止することが重要である。散水はほだ木の温度を下げるためと、ほだ木内に水分を供給するために行う。特に人工庇陰やハウス内は高温となるため、日中しっかり散水を行い、ほだ木温度を下げる 것이重要となる。												
（４）病害対策	高温多湿の条件では、ほだ木の重要病害であるトリコデルマ属菌のまん延に注意が必要である（写真1）。この属の菌は、シイタケ菌を直接加害し、被害が大きいほだ木はシイタケの収穫は望めないなど被害が大きい。予防では、高温時には多湿とならないように、ほだ場・伏せ込み場の周辺の草刈りなどで風通しを良くすることが肝要である。症状が出たほだ木は、直ちに隔離しほだ木を焼却処分等する必要がある。  写真1 トリコデルマによる被害 （一財）日本きのこセンターHP より引用												
（５）台風対策	8月は台風の多い季節である。風害を受けやすいほだ場は事前に遮光ネットを外す。台風通過後は伏せこみ場やほだ場を巡回して笠木や遮光ネットの点検を行い、復旧・補修を行う。ほだ木上に落下した枝条・落葉は撤去し、倒れたほだ木は起こして組み直す。												

（作成 林業研究センター）